

成長期におけるコレステロール値の変動について

班 員 若 生 宏

研究協力者 西 島 浅 香 島 山 富 而

I. 対 象

盛岡市に隣接する半商半農の、岩手県の中では比較的民度の高い恵まれた地域の小学校4～6年生220名、中学校2年生248名、高校2年生262名。

II. 採血および測定方法

採血は昼食前に施行し、採血後すみやかに大学に持ち帰り、3,000 rpm 20分にて遠心後、血清分離し、 -20°C に一時凍結保存、10日以内に測定した。測定は、酵素法により、協和醸造のデタシナー TC を使用し測定した。なお、同時に身長、体重、皮下脂肪厚（左上腕背側部）を測定した。

III. 結 果

表の通り

表 1 石鳥谷空腹時コレステロール値

(): 200 mg/dl 以上の%

	男 子 (mg/dl)	女 子 (mg/dl)
小 学 校 年 4	35名 175±21(15%)	35名 169±24(15%)
小 学 校 年 5	35名 180±31(29%)	44名 170±23(12%)
小 学 校 年 6	41名 165±25(10%)	35名 179±32(27%)
中 学 校 年 2	118名 163±28(8%)	130名 179±32(20%)
高 校 年 2	174名 174±43(20%)	88名 187±44(39%)

IV. 考 察

表の様に、女子では年齢増加に伴ってコレステロール値の上昇があり、特に思春期に著明の様に思われる。これは男子にも同様にみられるが、女子が早く上昇している。又 200 mg/dl 以上者の割合も、男子で 8～20%、女子で20～39%と、急上昇している傾向がみられる。又、コレステロール値に対する、最高血圧、脈圧、ローレル指数、皮下脂肪の厚さの、各測定値の相関係数を調べた結果、全般的にみて、コレステロールと高い相関を示すものはない様である。ただ、ローレル指数と皮下脂肪の場合を比べてみると、ローレル指数の場合は、男女共相関はない様であるが、皮下脂肪厚については、中学生、高校生では、女子では相関があり、男子では相関関係がやや少ない様である。

尚、現在調査中のデータ、まだ例数は少ないが、コレステロール値 200 mg/dl 以上の者と 120 mg/dl 以下の者との食事調査をしたところ、蛋白質、脂肪の摂取量には著明な差はなかったが、高コレステロール値を示す者は、低コレステロール値を示す者に比し、植物性蛋白に比し、動物性蛋白質の占める割合が高く、又、総脂肪中の動物性脂肪の占める割合も高値であった。尚線織については、低コレステロール値を示す者が高コレステロール値を示す者に比し、約 2 倍の摂取量であった。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

.対象

盛岡市に隣接する半商半農の,岩手県の中では比較的民度の高い恵まれた地域の小学校4~6年生220名,中学校2年生248名,高校2年生262名。